

設問 1 650～700 字

ゴミを減らす方法で一番効果があるのはリデュースである。ゴミになるものを作らない、買わない、使わないということである。次に効果的なのはリユースであり、一度使ったものを捨てずに繰り返し使う事である。そして最後に効果的なのはリサイクルであり、使わなくなった製品を原料に戻して、もう一度製品を作ることである。リサイクルが 3 番目の理由は、手間やエネルギーが一番かかるからである。

ペットボトルを例にして考えてみよう。現在、飲料のほとんどがペットボトルで売られている。ペットボトルのゴミをリデュースするには、私たち消費者がそれを買わないということに加えて、飲料メーカーがペットボトルを作らない、使わないという取り組みをすることがどうしても不可欠である。次に、ペットボトルをリユースするというのは、使い終わったものを繰り返し使うということである。そのためには、ペットボトルの回収の手間のほかに、殺菌・消毒が欠かせない。しかし、熱や薬品にけっして強くない材質のため、その処理に様々な技術とエネルギーが必要になると思われる。現在、ペットボトルのゴミを減らす方法として最も定着しているのはリサイクルである。家庭でも公共の場所でも、ペットボトルはしっかりと分別されるようになってきている。回収されたペットボトルは溶かされて、新たなプラスチック製品のための原料になると聞いたことがある。

ペットボトルのリサイクルが定着していることは、いいことだと思うが、最も手間とエネルギーのかかる方法が選択されていることになる。(664 字)

設問 2 450～500 字

ゴミを減らす方法としてもっとも効果的なのはリデュースである。そして私たちに身近なリサイクルは、リデュース、リユースに次いで三番目に効果的な方法である。ペットボトルについては、家庭でも公共の場所でも、しっかりと分別することが求められ、私たちもそれを守る習慣が身につけており、ペットボトルをリサイクルすることでゴミを減らすことに貢献できていると信じている。しかし、リデュースの観点からすると、実は落とし穴があることがわかる。

表を見ると、ペットボトルの販売量に対する回収量のである回収率は、2005 年に 61.7%であったものが、2016 年には 88.8%まで増加している。しかし、販売量自体は、2005 年の 529,847 トンから 2016 年の 596,056 トンへと増え続けている。回収率を高める

ことによってリサイクルされるペットボトルの量は増加するのでよい傾向だといえる。しかし、ゴミを減らすために最も効果的なリデュースにはまっただけでなく、エネルギーを必要とするリサイクルに頼るのは問題である。

私たちは、ペットボトルのリサイクルに安心することなく、リデュースにつながるような行動を日ごろから考えていく必要がある。(460字)